

輝くひと 第14回

決意を胸にロシアへ バレエ界の架け橋に――

プロのバレエダンサーを目指し、15歳のときに一人でロシアに渡った伊藤智美さん。今年4月、マクシーモア記念ロシア国際アラバスクコンクールで特別賞を受賞しました。

普段は、ロシアのグリнка記念チェリャビンスク国立オペラバレエ劇場のソリストとして舞台上に立っています。



2人の違い者

―15歳、ひとりでロシアへ―

「バレエアーティストになりたい」。

その一心で、中学卒業後は、ロシアに行くことを決意しました。ロシア国立モスクワ舞踊アカデミーは、2,000人受験して60人程度しか合格しない、超難関のバレエ学校。伊藤さんは、留学生として同アカデミーに正規入学しました。

―困難を乗り越えること―

ロシアに来たものの、言葉も分からないまま。いつも辞書を持ち歩き、ロシア人に囲まれての寮生活と、外国人向けのロシア語の授業によって、3か月でロシア語を習得しました。

立ち上がった壁は、言葉だけではありませんでした。本場ロシアに行き行って感じた、体格や骨格の差。「日本で教わったことと全く違うロシアのバレエに、カルチャーショックを受けた」と伊藤さんは話します。「家族や友だちとのつながりを励みに頑張った」と当時のことを振り返ります。また、同アカデミーの卒業試験前にけがをしてしまったという経験も。それでも、先生



ロシア国家バレエ
アーティスト

いとう ともみ
伊藤 智美さん

や仲間たちの支えとともに乗り越え、アカデミー卒業後は、ロシア国立モスクワ舞踊大学、同大学院を経て、グリнка記念チェリャビンスク国立オペラ・バレエ劇場に入団しました。

ロシア人にとってバレエは、映画を観るような感覚でとても身近なもの。「あの子が踊るときに観に行きたい、と思ってもらえるようなバレエアーティストになりたい」と伊藤さんは目標を語ります。

―ロシアと日本の架け橋―

「日本の子どもたちに本場のバレエを教えたい」「もっとバレエを身近に感じてほしい」という思いから、一時帰国した際には、東京や横浜などで子どもたちにバレエを教えています。また、「水戸芸術館でも踊れる機会があれば踊りたい」と目を輝かせる伊藤さん。ロシアと日本を結ぶ、美しい架け橋となることでしょう。

※グリнка記念チェリャビンスク国立オペラ・バレエ劇場…ロシアにあるオペラ・バレエ専属劇場。バレエ、オペラ、オーケストラのプロが300名以上所属している。日本人は伊藤さんを含めて2名。

Profile

1987年3月生まれ。水戸市宮町出身。15歳のときにロシア国立モスクワ舞踊アカデミーに入学。グリнка記念チェリャビンスク国立オペラ・バレエ劇場で活動中。ロシアでバレエアーティストは国家公務員。好きな食べ物は和食で、特に納豆が好み。休日は旅行や料理などをして過ごしている。